


知財業務を加速する：3つのAI支援ツールの比較とセキュリティ対策

知財業務の効率化とセキュリティの両立：TOKKYO.AI、Summaria、Genzo AIの3ツール導入検討




TOKKYO.AI (MyTokkyo.Ai)

リーガルテック社提供。独自の「Xシステム」とChatGPT APIを組み合わせ、自然言語による対話型の特許検索や発明提案書の自動生成を可能にします。



Summaria (サマリア)

パテント・インテグレーション社提供。弁理士が開発した実務特化型で、Azure OpenAI等の複数モデルを活用し、特許文書の要約や侵害予防調査を支援します。



Genzo AI

島津製作所の知財部門が自社開発したシステムを外販化。出願から契約書レビューまで6つのモジュールを備え、実務者の確認・修正を前提としたワークフローが特徴です。

セキュリティ・データ保護の徹底比較

全ツール共通：AI学習への二次利用は「なし」

利用規約や契約に基づき、入力データがAIモデルの学習や改善に使用されることは一切なく、機密情報の新規性喪失リスクを排除しています。

データ保存場所とアクセス制限

主に国内のAWSサーバーを利用。Genzo AIやSummariaは厳格な権限設計により、ツールの運営担当者であっても顧客データにアクセスできない仕組みを構築しています。



	TOKKYO.AI	Summaria	Genzo AI
データ保存場所	ユーザー専用プライベート環境 ✓	国内AWSサーバー ✓	国内AWSサーバー ✓
AI学習への利用	二次利用なし ✓	利用規約により禁止 🔒	契約上禁止 🔒
運営者のアクセス	専用環境により制限 ✓	閲覧不可 🔒	AWS権限設計によりアクセス不可 🔒
検索クエリの扱い	専用環境外に送らない設計 ✓	API送信時に匿名化 🔒	外部AIには一時送信のみ 🔒


導入のメリットと情報システム部門への依頼

劇的なコスト削減と効率化

外部委託費や人件費を削減。Genzo AIのベースシステムでは年間8000万円のコスト削減実績があります。



クラウド利用の許可
(ドメイン等)



セキュリティポリシー
適合性の評価



社内利用ガイドライン
の策定支援

IT部門へのお願い：3つのステップ

インフラ改修不要のSaaS型: いずれのツールもクラウドサービス (SaaS) として提供されるため、社内インフラの大規模な改修を伴わずに導入が可能です。